

平成28年度

中央市・昭和町地域自立支援協議会報告書

平成29年3月

中央市・昭和町地域自立支援協議会



## はじめに

### 心のケアと自立支援協議会

災害時において「心のケア」が大切だと以前から話してきました。目に見える事柄では、回復していく方向や目標は、わかりやすいものですが、心のような実態のないものでは、言葉としては、格好がつくものですが、具体的に明確にしていくとよくわかっていないことに気づかされます。「目に見える事項」心のように「目に見えない事項」ともに、災害時における復興の目標は、「いち早く日常を取り戻す」ことです。

では、災害を被って、心がケアされ、「日常を取り戻していく」とは、いったいどんなことなのでしょう。

目に見えないものは「失って見ないとわからない」ものですから、普段は、当たり前前に存在しているものです。災害を被ると「心」は、何を失ってしまうのでしょうか。私たちが普段から「当たり前」にある心の何かを失ってしまうのです。その状態を「失意」と呼ぶとすると私たちは、どんなことを失った状態でしょうか。それはとりもなおさず「未来」です。「明日への希望」です。昨日から今日、今日から明日へと、私たちは自然に、未来を思い描き生きていきます。それが、何らかの日々の成果として、形となり、実態感を得ることによって、心は、「無意識に未来を描く心強さ」として、感じています。災害が起こると、目の前から、今まで実態として積み上げてきたものが、一瞬にして失われるものですから、心は、実態感を得ることができず、明日を思い描く力を失い、力強く生きてきた今までの「はっきりとした計画性がある生活」と違い、失意に満ちた「さまよった」状態となります。

災害時の心のケアとは、心の日常をいち早く取り戻すことに他なりません。心の日常は、明日への希望を持つこと、未来を予見すること、夢を描くことです。自然に行われているこの「生きていく」原動力となる心の働きを取り戻していくことだと思っています。

災害時における体制を構築する上で、大切な言葉は、「自助、共助、公助」でした。では、これを「自助」「共助」「公助」という言葉と結びつけてみましょう。「心の自助」「心の共助」「心の公助」として考えていくとより明確になると思います。それは、よくわからないものになることがわかります。つまり、心のケアにとって普段使っている言葉で言い表せる事柄が、心のケアの実態であり、災害時における心のケアなのです。「励まし合い、元気づけ合い」ともすれば、現実から明日を描く、未来を予見することができず、「心が折れ」くじけそうなときはに支え合いこそが、心のケアにとって大切なことです。

だから、生活をしている地域を大切に、それを「地元愛」のように強固なものにする「公的な力」であります。強固なものにするためには、課題を共有し、その課題解決をともに行っていくことしかありません。

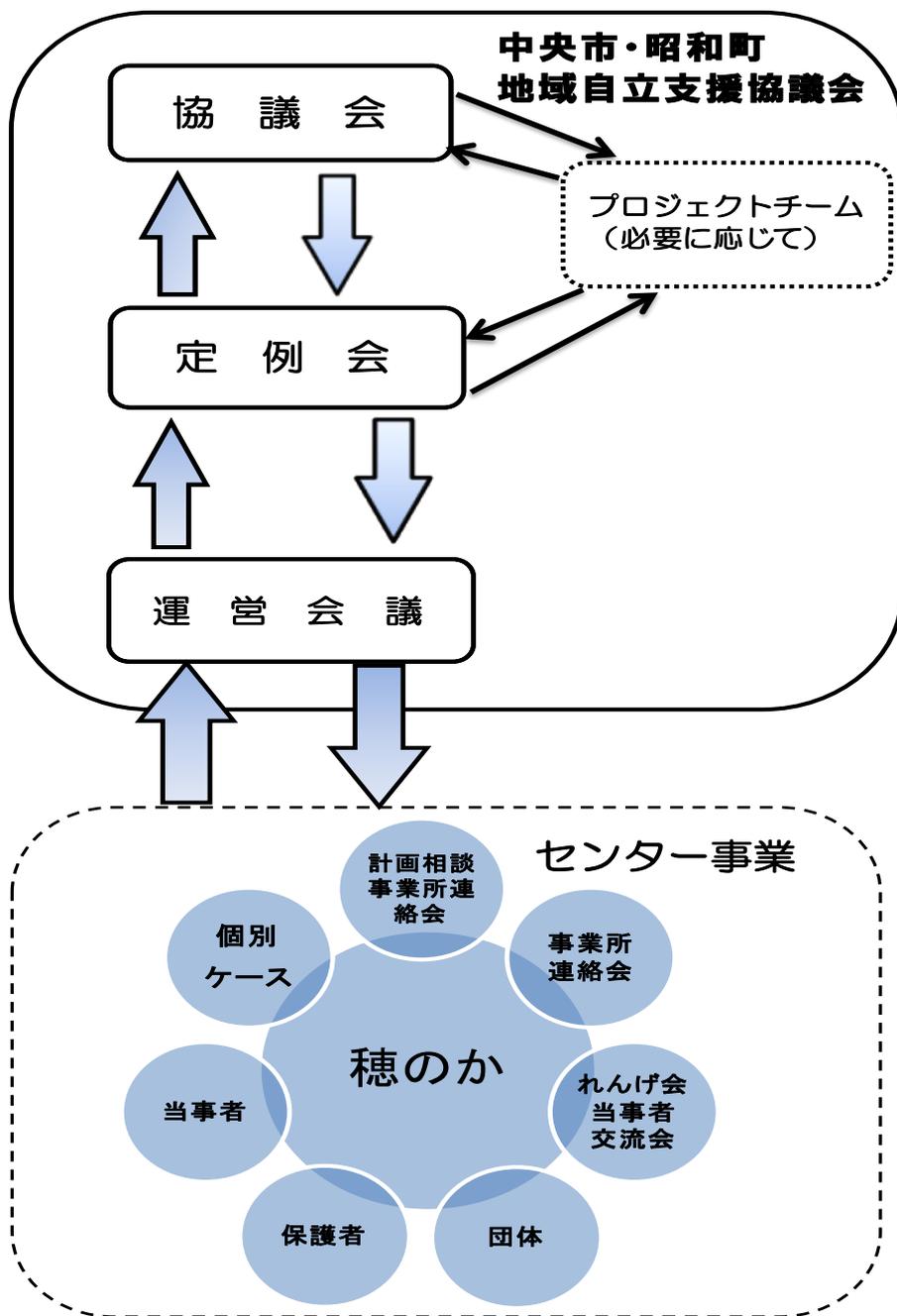
やっとたどり着きました。自立支援協議会がなぜ必要なのか、何のために集まり、課題を明確にし、その解決に向けて知恵を出し合っているのか。

ただ、その地域がずいぶん変成していることに気がつきませんか。今までの地域といった考え方を少し変えていかなければならない時期です。

# 1 組織体制

中央市・昭和町地域自立支援協議会は、平成 28 年度より協議会、定例会の 2 部構成とし、協議会事務局は中央市・昭和町障がい者相談支援センターに置かれています。

尚、協議会・定例会の他に、協議事項の課題解決に向けて調査研究するための専門部会（プロジェクトチーム）を置くことができます。



## 協議会

- ・定例会で建議した結果の報告を受け、検証・確認・情報の共有等を行います。
- ・相談支援事業の運営状況の報告を受け、その検証・確認・評価をおこないます。

## 定例会

- ・当事者部会の状況報告・ニーズ・情報把握をおこなうとともに、個別ケア会議や相談事例に関する評価を通じ課題等を協議します。
- ・定例会での協議結果等は、協議会へ建議又は報告します。

## プロジェクトチーム

- ・課題等について検討、調査研究をおこない建議・報告をおこないます。

## 2 協議会委員名簿

### 協議会 委員名簿

◎会長 ○副会長

番号	所 属	役 職 等	委 員 名
1	中央市社会福祉協議会	事務局長	坂本 桂
2	昭和町社会福祉協議会	事務局長	小林 耐三
3	中央市教育委員会	教育総務課長	早川 久
4	昭和町教育委員会	学校教育課長	五味 隆
5	中央市民生委員児童委員協議会	会 長	長島 幹夫
6	昭和町民生委員児童委員協議会	会 長	原沢 清久
7	中北保健福祉事務所	事務次長	芦澤 麗子
8	山梨県立わかば支援学校	校 長	中山 真男
9	甲府公共職業安定所	統括職業指導官	鈴木 宏幸
10	中央児童相談所	児童福祉司	金子 茉以
11	中央市・昭和町発達障害コーディネーター	コーディネーター	◎三尾 馨
12	山梨県手話通訳士会	会 長	利根川 圓
13	中央市心身障害児者父母の会		近藤 美希子
14	ドラえもののポッケ		一瀬 かおり
15	昭和町心身障がい児・者親の会ひばり会	会 長	丸山 裕子
16	中巨摩心身障害児者父母の会	会 長	○武井 泰仁
17	中北圏域マネージャー	中北圏域マネージャー	飯室 正明

障害児(者)関係機関の代表者等、学識経験者、当事者、行政など 17 名以内で構成し、市(町)が任命します。必要に応じ、関係者を出席させ意見説明を聴くこともできます。任期は2年とし、再任できるものとします。

\*年度中に人事異動等により委員が以下のとおり改選されました。

番号	所 属	役職等	旧委員名	新委員名
5	中央市民生委員児童委員協議会	会長	長島 幹夫	→ 吉留 光廣 (1月～)
6	昭和町民生委員児童委員協議会	会長	原沢 清久	→ 杉原 喜彦 (1月～)

定例会 委員名簿

◎会長 ○副会長

番号	所 属	役 職 等	委 員 名
1	甲府支援学校	地域支援係主任	長田 佳美
2	わかば支援学校	地域支援部主任	竹内 陽子
3	中北保健福祉事務所	主 査	相吉 早恵子
4	中央市保健師	副保健師長	榎窪 紀子
5	昭和町保健師	主査係長	功刀 朱美
6	すみよし障がい者就業・生活支援センター	担当責任者	藤原 真由美
7	中央市障害者福祉会	会 長	馬場 正江
8	昭和町障がい者福祉会	体育部長	○川又 昭彦
9	中央市聴覚障がい者協会	会 長	秋山 隆晴
10	社会福祉法人中央市社会福祉協議会	峡中地区権利擁護 センター 専門員	加藤 朝香
11	NPO 山梨県障がい者自立支援センター ASパック	サービス管理責任者	佐藤 充
12	おひさま	支 援 員	赤池 公志
13	なないろそらの家	児童発達支援管理責任者	江波 広明
14	みらいファーム	所 長	◎中村 光輝
15	甲府圏域地域療育等支援事業 コーディネーター	甲府圏域地域療育等支援事 業コーディネーター	由原木 淳美
16	中北圏域マネージャー	中北圏域マネージャー	飯室 正明

関係機関等の実務者 16 名以内で構成し、議題に応じ、定例会が必要と認めた関係者を出席させ意見を聴くこともできます。任期は 2 年とし、再任できるものとします。

### 3 開催状況と内容

	協議会	定例会	P T
4月			
5月	5月25日(第1回) ■H27 年度自立支援協議会報告書より ■H27 年度センター相談状況より ■地域診断と地域生活支援拠点について ●H28 年度協議会運営について ●H28 年度センター事業実施計画について		
6月		6月22日(第1回) ■H27 年度自立支援協議会報告書より ■H27 センター相談状況より ●H28 年度協議会運営について ●H28 センター事業実施計画について ●地域診断と地域生活支援拠点について	
7月			7月28日(第1回) ●各市町の障がい福祉計画等の進捗状況の確認 ●ニーズ調査について など
8月		8月24日(第2回) ■第1回事業所連絡会について ■きっかけ学習会について ■防災学習会について ●「穂のか」より ●地域診断と地域生活支援拠点について ●県自立支援協議会と権利擁護部会との協働について	
9月			9月15日(第2回) ●ニーズ調査について ●移動サービスについて など
10月	10月26日(第2回) ■第1回、第2回定例会より ■第1回、第2回事業所連絡会より ■学習会、研修会より ●地域診断・地域生活支援拠点について ●防災の取り組みについて ●「権利擁護について考える座談会」について		

11月		11月16日(第3回) ■第2回協議会について ■第2回事業所連絡会より ■第2回PT(プロジェクトチーム)会議より ■研修報告(福祉従事者研修) ■県自立支援協議会について ●「防災」の取り組みについて ●「穂のか」から ・相談事業の評価について ・障がい福祉サービス理解に向けた取り組みについて	アンケート実施
12月			12月15日(第3回) ●地域診断・地域生活支援拠点PTアンケート結果より ●住みたいと思えるまちづくりについて
1月		1月25日(第4回) ■第3回事業所連絡会について ■研修報告(精神障がい者支援研修) ●次年度の協議会スケジュールについて ●定例会委員より提起事項 ●地域づくりについてのPT(プロジェクトチーム)の提言を受けて	
2月			2月28日(第4回) ●地域診断・地域生活支援拠点について ●「移動」「住居」について
3月	3月22日(第3回) ■第3回、第4回定例会より ■第3回、第4回事業所連絡会より ■第3回、第4回PT会議より ■権利擁護について考える座談会 ■防災・移動に対する市町のとの話し合いについて ●次年度の協議会スケジュールについて ●タクシー券利用について		



## 4 協議された課題について

今年度に自立支援協議会で協議した地域課題及び協議結果は以下のとおりです。

<p>①検討課題 (前年度からの継続協議)</p>	<p>地域診断と地域生活支援拠点について</p>
<p>②協議内容 ・結果</p>	<p>第1回協議会 ・昨年度の定例会において話し合われた内容について報告。</p> <p>第1回定例会 ・ワーキングを行うことについて了承していただく。又、計画相談員からの視点で意見をいただきたいという要望があり、ワーキングの中に入ってもらえるように働きかける。 ・ワーキングの協議内容として「教育機関と福祉の狭間の問題」「グループホーム」「移動」「進路の希望調査」「短期入所の課題」について障がい福祉計画にならった形で、今の進捗状況を含め確認していく。</p> <p>第1回PT ・第4期障がい福祉計画に沿って情報共有 ・地域づくりの視点については以下の二点について協議していくこととなる ①居住系サービスについて ②移動サービスについて ・ニーズ調査について ・計画相談員の参画について</p> <p>◎太字内容について定例会で検討をお願いする。</p> <p>第2回定例会 ・「居住に関すること」「移動に関すること」「ニーズ調査について」協議。 ・計画相談員の参画について了承される。</p> <p>第2回PT ・計画相談員の立場から困る点や地域課題を確認し、「居住及びニーズ把握と方法について」「移動について」委員から意見をいただく。 ・ニーズ調査についてはGH入居者に向けてアンケート調査を行う ・移動サービスについては、移動サービスという視点だけでなく、広く交通弱者ということで両市町の協議の場へ出向いて伝えていく。また、GH入居者に向けてのアンケート調査において、移動についての項目を設けて確認を行う。 ◎太字内容について、協議会にて検討をお願いする。</p> <p>第2回協議会 ・上記内容を報告し、第2回PT 太字部分について了承される。</p> <p><u>◎中央市、昭和町より支給決定を受けているGH入居者を対象にアンケートを実施。</u></p> <p>第3回定例会 ・上記内容を報告</p>

	<p><b>第3回PT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を踏まえ、色々な条件の中で中央市、昭和町に住みたいと言われるような環境を整えていかなければならないのではないか、と意見集約される。</li> <li>ただ、地域生活支援を考える上で、障がいをお持ちの方が住みやすい地域と限定してしまうと地域づくりとしては難しさがあり、居住や移動の課題も掘り下げて行くと地域住民全体に精通した課題なのではないか、との共通認識を持つことになり、第4回定例会では、各委員が考える「住みたいと思える地域(まち)づくりとは？」について意見をいただくこととなる。</li> </ul> <p><b>第4回定例会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「住みたいと思える地域(まち)づくりとは？」について各委員より意見をいただく。</li> </ul> <p>◎「移動」について、両市町の公共交通担当課との意見交換会を実施</p> <p>現状についてお伝えし、今後も継続して話合う機会をもっていくこととなる。</p> <p><b>第4回PT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第4回定例会での意見を受け、「みんなが暮らしやすい街は障がい者にとっても暮らしやすい」という事は共通認識されたので、対象を障がいをお持ちの方に絞って「移動」「居住」について意見集約する。</li> <li>「移動」については、中央市・昭和町の担当課との意見交換会を今後も継続して話し合う機会を持っていく。</li> <li>「居住」については <ul style="list-style-type: none"> <li>①緊急連絡先を作ることが必要</li> <li>②住居確保</li> <li>③体験の場</li> <li>④住もうとしている方の意向確認</li> </ul> </li> <li>今後は④に絞ったPT会議を開催する。</li> </ul> <p><b>第3回協議会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記内容について報告。</li> </ul> <p>◎次年度へ継続協議となる。</p>
--	--

<p>① 討検課題 (前年度からの継続協議)</p>	<p>防災学習会より出された意見を踏まえて、今後「防災」について継続して協議会全体で活動していくのか否かの検討を頂きたい。 継続していくのであれば具体的な活動内容についてもご意見いただきたい。</p>
<p>②協議内容 ・結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2回定例会、第2回協議会で協議した結果、今後も継続的に防災についての活動をしていく事となる。</li> <li>具体的な取り組みとしては「学習会が必要」との意見をいただく。</li> </ul>

	<p>・また「当事者の方の出席が少なかったのは危機感と関心が無いのではないか。」との意見もあり、今後センター事業として各種団体と意見交換をする場があるので、その中でなぜ来れないのか等を深めた方が良いのでは、との意見をいただく。</p> <p>・両市町の防災担当課等と話し合いの機会を設け、現状を伝えるとともに、次年度から継続的に意見交換会を設ける事となる。</p>
--	--

① 検討課題	相談事業の評価について。自立支援協議会の機能の一つにある「相談体制の評価」について今までは前年度の実績といった形で、数についての報告をしていました。相談事業の質の評価として、どのような進め方があるのかご意見いただきたい。
②協議内容 ・結果	<p>第3回定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者や家族など、関わりのある計画相談、事業所にアンケート調査を行うのが良いのではないか。</li> <li>・事業報告については、実際の支援の事例を具体的に入れ、その事例を通して出た課題についても載せたり、相談件数を載せるのはどうか。</li> </ul> <p>との意見をいただいたので、今後の評価の方法として検討していきたい。</p>

② 検討課題	山梨県自立支援協議会 権利擁護部会との協働について
②協議内容 ・結果	山梨県自立支援協議会権利擁護部会より、中央市・昭和町地域自立支援協議会との共催というかたちで「権利擁護について考える座談会」を開催したいとの要望があった。協議会で了承され、平成29年2月28日に実施した。

①検討課題	障がい福祉サービス理解に向けた取り組みについて、「穂のか」として児童期・青年期・成人期でそれぞれ伝えられる情報を提供する機会を何か企画するのはどうか。また、どんなかたちだったら良いのか等についてもご意見をいただきたい。
②検討内容 ・結果	<p>第3回定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機会としては、現状としてサービスについて周知が不十分なところもあるので、事業所の合同説明会を行うのはどうか。</li> <li>・説明会を開催するのであれば、対象エリアは広い方が良い。</li> </ul> <p>等の意見をいただく。今後はいただいた意見を基に情報提供する機会を検討していく。</p>

①検討課題	<p>中央市・昭和町聴覚障害者協会より、タクシー利用料金助成事業に関して『①タクシー券には「平成 28 年度」と記載してあるのに、運転手から「平成 29 年だからそれは使えない」と言われた。②身体障害者手帳とタクシー券を提示した時に突き返されてしまい、非常に怖い思いをした。③タクシー券に利用した乗車区間を記載する欄があるが、狭くて書きにくい。タクシー券の利用・取り扱いについて、現場の皆さんがきちんとした対応をしてくださるように周知していただきたい。』等の意見があった。</p>
②協議内容 ・結果	<p>第 4 回定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー券が利用できる会社と利用できない会社がある …利用する側から見てわかりやすいステッカーを貼ったらどうか。</li> <li>・手帳やタクシー券を「使えない」と言われた時 …ドライバーにタクシー券や手帳と一緒に見せれば分かってもらえるようなリーフレットを配布したらどうか。</li> </ul> <p>上記内容について、第 3 回協議会に諮ることとなる。</p> <p>第 3 回協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステッカーについては県に状況を確認し、リーフレットの作成を依頼。</li> <li>・タクシー券を利用される方に利用可能なタクシー会社の一覧を渡す。また、市町内にあるタクシー会社に定期訪問し、周知と状況を確認する。</li> </ul> <p>今後は事務局で整理して進めていく事となる。</p>

## おわりに

この一年、当協議会に対し、お忙しい中をご協力を賜り、感謝申し上げます。

今年度は、各協議事項の審議は基より、基幹センターとしての役割を担うため、年間事業計画を立て、当協議会の了承を頂く中で、各事業を進めて参りました。

7月30日には、玉穂生涯学習館にて『防災学習会 みんなで考える地域防災 ～その時あなたは～』と題し、第1部では特定非営利法人 災害・防災ボランティア未来会代表 山下博史氏を講師にお招きし、「被災地の実情を通しての備え」について、東日本大震災・熊本県の震災状況などを交えながら講演を頂きました。第2部では「障がい児者の防災について考える ～中央市昭和町地域自立支援協議会からの提言を受けて～」と題し、参加者との意見交換会を行いました。

8月5日は、昭和町と中央市主催の『ともに生きるきっかけ学習会』に協賛し、講演「高次脳機能障がいってなあに？」とシンポジウムを開催し、約100名の皆様の参加を頂きました。

9月21日は、福祉従事者研修として、『サービス提供者の姿勢について ～苦情対応を通じて利用者本位の支援を再考する～』と題し、一般社団法人 兵庫県社会福祉士会事務局長 西野佳名子氏を講師にお招きし、講演を頂きました。

11月30日には、『精神障がい者の地域生活を支えるための研修会』として4名の講師をお招きし、それぞれのテーマで講演を頂くと共に、グループワークを開催し、参加者のいろんな考えを話して頂きました。

各事業とも参加された方からは「被災地の生々しい被害や救助に関する話が聞けたのは、とても貴重な体験でした。」、「当事者の家族として共感することが多く聞けて、励みになった。」、「忘れかけていたことを思い出し、勉強になりました。相談に従事する上で必要なことと思っています。」、「さまざまな支援をしている方とのグループワークで貴重なお話をたくさん聴くことができました。また、ぜひ参加したいと思います。」などの感想等を頂くことができました。

また、穂のかでは、偶数月の第3金曜日と奇数月の第3土曜日に地域に住む障がい者、難病と診断されている方達が交流する場所を作ることによって、外出の機会や地域の仲間づくり、就労への意欲と知識向上を目的に『れんげ会』を開催致しました。今年度は、開催曜日も工夫しながら、出会いの場づくりに努めました。

今後も基幹センター『穂のか』として、障がい児者の支援の充実、福祉従事者のスキルアップなどに繋がるような事業を展開して参りたいと思いますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

中央市・昭和町障がい者相談支援センター「穂のか」  
センター長 中澤 美樹